



まちの

達人

TATSUJIN

春日桜会

会長 市川 薫

私たち「春日桜会」は形原神社（通称・春日山）で桜を中心とした里山づくりをしています。

ここ春日山は、私たちが子どものころ、ふるさとの誇れる桜の名所でした。厄年の時には、仲間とともに100本の桜を植え、年に2回、下草刈りをするなどして大切に育ててきました。

しかし還暦の時、この名所の主役である桜（昭和2年植樹）は雑木に覆われ、見るも無残な枯死寸前の状態になっていました。

そこで、雑木の伐採を行い、私たちが植えた桜もあわせて、もう一度、山一面が桜の花で埋まるよう、桜の名所復元を夢見て春日桜会を立ち上げました。

設立して5年は、本当に短く感じました。やりたいことが目

白押しにもかかわらず、予算が少なかったため、やれそうなことは何でも自分たちでやりました。そんなある時、市が行っている「協働のまちづくり助成金」の交付が決まりました。この決定は、予算の面のみならず、会員がより一層団結するいい機会となりました。

4年ほど前からは、形原中学校の生徒の皆さんがボランティアで活動に参加してくれています。今年の2月22日には、山頂園地に「財日本花の会」からいただいた苗（神代曙）を卒業の記念として、植樹してくれました。新聞社の取材では、生徒が「今後も活動に参加したい。まつりには桜の木を見に来て成長を確認したい」とコメント。桜会活動の「意」が伝わったのを感じ、とてもうれしく思いました。今後もこんな気持ちで育み、後世に伝えていくため活動に頑張っていきたいと思えます。桜の枝越しに見える三河湾の絶景と春日桜会の想いのこもった春日山の桜をぜひ見に来てください。

【桜まつり】

3月25日(水)～4月10日(金)

午後5時～9時

※期間中はライトアップあり

水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

大阪の大学の先生たちと「自然に多くかかわっている子たちは、そうでない子たちに比べて、優しくて良い子が多いのではないか」という話をしました。水産試験場の場長さんは、それは仮説ではなく断定でもないのではないかといい、私もそれに強くなるべきでした。

この説は、小さい時から海や川で生き物と遊んできた、優しくて素晴らしい私が完全に立証しているわけで・・・。と、いつても実のところ私は幼いころ、優しいどころか生き物をいじめていました。その罪滅ぼしで今、水族館で働いているのかもしれない。

生き物は心を育てる

子どものころ、ザリガニ釣りをしていた、1匹釣れるとその頭をちぎり、それを餌にして次のザリガニを釣るというようなことをしていました。そんなことをしていると、ザリガニだって死にたくないのに反抗してきて、指を挟んだりします。海でカニを採って遊んでいる時も同じです。

海にいるイシガニなどは凶悪で、挟まれると出血する時があります。市内の小学校で展開している環境学習の時、このイシガニにクラスのカギ大将的な存在の子が指を挟まれ、半ペソをかきました。その痛みと、挟まれた驚きから、彼はカニに反撃する気力を失い、しばらくしよぼくれています。それを周りの仲間たちが見て「アイツがしよぼくれるくらいだ、カニってすごい」という顔をしていました。

私は、こういう経験は、人の気持ちや痛みを考えることにつながると思います。子どもたちよ、どんどんカニに挟まれて泣きなさい。